

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4323900029		
法人名	株式会社 いずみ		
事業所名	グループホーム 菜の花 苓北		
所在地	熊本県天草郡苓北町志岐151-1		
自己評価作成日	令和6年 1 月 13 日	評価結果市町村報告日	令和6年 3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 2 月 6 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苓北町は小さい町で、職員もほぼ町内住民が多いため、顔見知りも多く、買い物や病院受診時知人と会ったり、地域行事等にも参加していた。徐々に行事も行われるようになり、参加できるようになっている。看護師の配置により、異常時等病院との連携し受診し早めに対応できている。不十分ではあるが、本人の持っている能力を引き出すよう、役割を持って頂いたり、体を動かす機会の支援を行っている。元気なうちに行きたいところに行く、したいことをするという事で、相談しながら、人混みを避けてドライブへ出かけたり、ホーム内で出来る行事を考えて楽しみを持って頂くようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の訪問後、この2年間で数人の入居者の入れ替わりがあったものの、職員体制は変わらず、落ち着いた穏やかな入居者と職員の毎日の生活が続いていました。お元気な入居者からは訪問中におもてなしを頂き、お話をさせて頂く機会もありました。事業所での生活は、入居者から「出かきたい」が聞かれれば数名ずつドライブに出向き、「食べたい」が聞かれれば献立に取入れる等、日常生活そのものでした。これまでの生活を大切に、カレンダーを見て季節行事や家族行事等に心を寄せる入居者にも寄り添う姿がありました。生活の様子は毎月お便りや写真で家族にも伝え、家族との関係作りにも取組まれていることがうかがえました。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく・自分らしく・思いやり・安らぎ・ありがとう・笑顔あふれる菜の花」の理念を掲示し、業務中のミーティングや出退勤時、職員個人の振り返りを行っている。	理念は毎年年度当初頃の職員会議で法人・管理者より思いを伝え、学び、振り返り、共有する機会を持っている。理念は、入居者だけでなく職員とも互いの思いであり、それが地域にも広がることを目指したものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の職員がおり、一員として、常会の出席、クリーン作戦や神社の掃除に協力した。	今年度は地域の祭りや交流も再開したこともあり、入居者と地域の関わりを持つことができた。祭り際には沿道から見学した。入居者も地域住民であり、地域に住む職員もいることから、事業所全体が地域の一員としての生活が送られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにて認知症に理解を深めている。コロナになり依頼はなくなったが傾聴ボランティアとして登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活状況や活動報告後、意見交換、家族交流を行っており、良い意見が多く職員の励みとなっている。町職員も参加もあるため町に要望意見などがしやすい雰囲気となっている。	会議には行政・地域役員の他家族も参加し、日頃の入居者の生活や職員の研修状況等を報告している。今年度は町役場と地域包括支援センター共に参加頂くため、行政・地域共に意見交換できる場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には町担当者の参加がある。職員も町内の住民が多く、連携も取りやすく、ホームの活動や運営状況など報告している。	日頃の報告・連絡・相談等の他、運営推進会議の際には事業所の取組みを伝えている。町の協議会委員となったり、事業所からも各種ネットワークの会議・研修等への参加もあり、協力体制が見られる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修実施している。玄関にはチャイムを作動している。入居者の行動には絶えず把握できるようにしているが、時々知らないうちに外へ出ておられることあり。	職員研修を定期的に行い、町主催の研修にも参加している。入居者の状況は様々であるが、職員は入居者の動き・様子に気を配り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い全職員の理解浸透の取り組みを行っている。入浴時等全身症状確認している。年に1回は苅北町虐待防止対策協議会があり参加している。		

グループホーム 菜の花苅北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い全職員の理解浸透の取り組みを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解して頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動のみならず非言語もキャッチしその人の思いを察するよう日々の申し送りノートに記入し共有できるようにしている。家族面会時意見など言いやすいよう心がけている。	地域からの入居が主であることもあり、家族の協力もよくみられる。毎月のおたよりや写真等も用い家族へ入居者の様子を伝えることで職員へ意見を言いやすい環境作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1の職場会議などで意見を出し、職員全体で反映できるよう記録している。	2ユニットそれぞれの管理者は職員の意見・提案等を日常的に聞くことができる体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場会議や現場等で意見や悩みの把握、事業計画など報告し現状の理解に努めている。賞与査定行い支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合わせた、内部、外部研修を行い、法人として資格習得を促進し、優先しての勤務希望、休日の考慮などを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草グループホーム連絡協議会や町の研修会に参加し、他事業所との意見交換、研修等を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族及び居宅ケアマネからの情報提供に加え本人とも入居前面談、入居初期は関わりを深く持ち、本人の思いを知るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前見学や面談、入居時面談を含め、家族の思いを知るように努めている。面会時など気軽に話しやすい雰囲気づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況確認しサービス利用中の方は担当ケアマネと連携している。又サービス利用されていない方には申請の方法や地域包括支援センターに連絡対応を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗洗い・洗濯たみ・掃除など本人の持っている力を引き出し職員と共に行えるようにしている。「何か仕事はない?」「一緒にしたら早く終わるからね。」と進んでお手伝いを探して行われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や入居生活状況の報告をし在宅での暮らしぶりなどを知り、欲しい物やしたいこと、受診など協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医や理容室に通う方もおられ、四季折々の行事に地域に出向いていた。その方の地区の敬老会に参加していた。	入居者も町の住民であったため、祭りや行事にも馴染みあるものである。家族だけでなく、美美容院や近隣に住む知人・親戚等、協力を得ながら支援を行っている。かかりつけ医通院の際には知人に会う場面も見られる。	住み慣れた町での生活が続いている様子が聞かれました。敬老会等、地域行事が再開された際には、是非入居者が出向き再び参加できるよう支援の継続に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言動・表情・行動などを見極め、孤立化せぬよう声かけ、会話、時には冗談を言い、気の合う仲間と交流されたり、利用者の行動を見守ったり、会話されたりと支え合う場面がある。		

グループホーム 菜の花苅北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関入院された方にはお見舞いに出かけていた。ホーム生活での思い出など話したり、亡くなられた方にはお参りに行っている。施設入居された方には施設職員から現状を聞いたりしている。地域で家族からお話聞く場面もある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動、行動、表情から真意を推し量ったり、家族から聞くようにしている。家族の意向と本人の意向が食い違う場合はできるだけ本人本位されるようにしている。	日頃の職員の寄り添いにて把握している。言葉が出にくい入居者の場合は仕草や様子にも配慮している。言葉で表すことができる入居者にはできるだけ思いが叶うよう日々見守りながら支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前担当ケアマネからの情報提供、本人との会話や家族、親戚、近隣の知人の方の面会時など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりや経過録、申し送り、個別カンファなどを含めて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向の確認や本人との毎日の関わりの中から言葉・表情・行動から察知したカンファや担当者の意見を反映している。	日々の様子の記録に加え、管理者によるモニタリング、毎月ユニット職員間で行うカンファレンス、職員の意見等を反映し、現状に即した介護計画を作成している。家族の意見は面会等を利用し意見・要望等を確認している。	それぞれの入居者の状況に合わせた介護計画の作成が見られます。家族の意向も確認されていますが、入居者の状況共有のためにも、担当者会議開催の際は家族へも声掛けされてみてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各チェック表を利用、タブレット記入となり情報共有行い、個別カンファで職員全員で共有し、定期、変化時に見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ病院受診や外出支援など行っている。職員は業務優先とせず利用者優先を心がけている。		

グループホーム 菜の花菘北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人のなじみの地域や知人などと交流できる行事計画や参加、外出を行っていた。日常的に心身の力を維持改善できるような生活の中での支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を、本人、家族の意向のもと継続し、定期受診後、家族には面会時、また、変化時電話連絡や手紙で報告している。訪問診察を受けている方もいる。	入居以前のかかりつけ医受診を継続して支援しており、複数の医療機関より往診を受入れ、通院の場合は職員・家族協力により支援している。看護師資格を持つ職員も週4日勤務し、入居者の様子で医療機関との対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を非常勤1にて配置、異常時等電話連絡にて対応している。必要時、かかりつけ医に連絡、受診介助している。受診結果は経過録にて職員全員把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時家族と共に主治医から治療方針、期間などを聞き、担当者に日頃の状況を口頭や書面で情報提供している。退院時カンファレンスの参加、入院中の経過、退院後の留意点など口頭や書面で情報提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時看取りまで行うことを説明している。重度化した場合、ホームでできる事を説明し、医療機関との連携を行い、本人、家族の意向を踏まえ、家族と共に尊厳ある終末期を迎えられるようチーム全員で支援している。	入居時に重度化・看取りについての事業所の対応を説明し、家族・本人の意向を確認している。実際にその時期を迎える際には話し合いを重ね、医師他関係機関と連携をとり全職員で支援を行う体制を持つ。現状は医療措置が必要となった際には入院となる例も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて緊急時対応や利用者の個々の対応など随時対応できるようにしている。急変時は管理者、看護師に連絡し、かかりつけ医受診等の対応を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の防災訓練や事業所での年2回の訓練を全職員で行っている。	全職員・入居者参加のもと年2回の避難訓練を重ねている。地域でも住民参加で防災訓練を行っている。	自然災害は心配も少ない地域であるかと思いますが、近年想定外の災害も見られます。火災だけでなく、例えば停電や地震等、様々な例を想定する等も職員間で共有される機会作りを期待します。

グループホーム 菜の花菘北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを保つよう心がけている。なじみの言葉かけや時には冗談で笑顔を引き出すようにしているが、危険行為や他の利用者の迷惑行為時などは注意する場面もあり、その後のフォローを行うようにしている。	入居者がポータブルトイレを使う際等はおもひに備え共用スペースから見えない場所に置く等配慮している。職員による心配される例は見られないが、入居者同士の懸案事項が見られる際は都度職員が配慮を行い対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動・表情・行動などを見極め、さりげなく声かけしたり、準備したり、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、入浴や役割など一人一人のペースに合わせ支援し、その日の気分を見極め、気分転換や個別に話し合いの把握支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時衣服の選択など本人に行って頂いている。理美容は本人、家族意向のもと、行きつけや福祉美容室を利用。外出時は本人、家族の希望の衣服を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に旬の物や頂き物等みて行事食やメニューを相談、調理や後かたづけなど職員と一緒にしている。	各ユニットそれぞれの献立で職員手作りの食事を提供している。農産物が豊富な地域でもあり、旬の食材も取入れ、昔ながらの保存食も取入れた家庭的な食事となっている。買い物は地域のスーパーも利用している。出来る範囲で入居者も食事に関わりを持ってもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好、食事量、形態を把握、提供し摂取されている。水分の入らない方にはとろみを付けたりお好きな物を飲んでいただくよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導し一人一人の能力に応じて職員が見守ったり、介助、必要時は歯科受診している。就寝前はポリドントにて除菌。日中はコップ、歯ブラシの日光消毒や適宜ハイター消毒。		

グループホーム 菜の花菘北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個別支援している。日中はトイレ排泄を基本に、排泄前のサインをキャッチし誘導している。	昼間はできるだけトイレでの排泄を支援しており、それぞれの身体状況に合わせてオムツやポータブルトイレを利用する。夜間はそれぞれの状況に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳製品、繊維質の多い食品の調理や排便時間把握や排便前のサインをキャッチし運動、腹部マッサージ、腹圧などにて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日は設定しているが一人一人の体調や意志、汚染状況に応じ随時対応。入浴されない日は部分浴し清潔保持に努めている。	入居者のそれぞれの状況に応じた対応を行っているが、週3回程度を基本としており、できるだけ見守りの支援を行っている。身体状況によってはシャワー浴の場合もある。入浴されない日の清潔保持にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中役割やレク活動を行い生活のリズムを支援しているが、昼夜逆転の方には本人のペースに合わせ、職員が寄り添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや服薬袋にて効能を把握できるようにしており、服薬チェックを行っている。薬剤管理指導にて薬剤師が来園されることも多く密に連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮できそうな事を準備支援している。行った後は必ず感謝の言葉を伝えている。行事、外出、レク活動など支援し気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいいからどこかに行きたいとの希望があればなるべく希望に沿うように支援している。外でお弁当を食べたいなどの希望の時は職員の人数の関係もあるので別の日に予定をたてて外出支援を行っている。お墓参りの希望もあるので行っている。	希望を表すことができる入居者もおられるため、外出希望の様子が見られる際には数名ずつ数回に分けてドライブに出かけることもあり、海・山の景色を楽しみ、外で弁当を楽しむこともある。近隣の散歩は日常的に行っている。家族の協力による一時帰宅もあり、日々個別の外出希望や買い物にも対応している。	

グループホーム 菜の花苓北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き好きな物を買っておられる。立て替えてレシート管理し出納帳を記録し家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人の要望時、子機にて話されるように支援している。携帯電話利用されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチン、高低差のある調理台・洗面台・天窓やサッシからの採光。トイレには見やすい表示などでわかりやすくしている。	明るく外の景色を楽しむことができる落ち着いた雰囲気を持つリビングでは、食事作りを手伝ったり見守る姿もある。リビングだけではなく、廊下や色々な場所に椅子やソファが多様な向きで置かれており、入居者が思い思いに過ごすことができる。安全やプライバシーにも配慮し、手摺りや居室入り口には、のれん等もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室・ホール・ウッドデッキには椅子、ホーム内空間には置物やお花、季節に合った飾り物など居心地の良い空間作りに工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物を持ってきていただくようにしている。簡単な家具を備えているが、自宅より持参される方もいる。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。居室にはテレビや家族を感じる物も置かれており、ベッドや布団等、それぞれの生活の様子が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい表示、居室個別のれん、手すり設置やトイレ手すり、玄関段差赤テープ目印、ホールは車いす移動、空間は机や椅子を設置し、安全に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく・自分らしく・思いやり・安らぎ・ありがとう・笑顔あふれる菜の花」の理念を掲示し、業務中のミーティングや出退勤時、職員個人の振り返りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の職員がおり、一員として、常会の出席、クリーン作戦や神社の掃除に協力した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにて認知症に理解を深めている。キャラバンメイトとして小学校に認知症サポーター研修として協力している。コロナになり依頼はなくなったが傾聴ボランティアとして登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活状況や活動報告後、意見交換、家族交流を行っており、良い意見が多く職員の励みとなっている。町職員も参加もあるため町に要望意見などが出やすい雰囲気となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には町担当者の参加がある。職員も町内の住民が多く、連携も取りやすく、ホームの活動や運営状況など報告している。苓北町のキャラバンメイトとして活動している。苓北町介護保険運営協議会委員として会議に出席している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修実施している。玄関にはチャイムを作動している。入居者の行動には絶えず把握できるようにしているが、時々知らないうちに外へ出ておられることあり。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い全職員の理解浸透の取り組みを行っている。入浴時等全身症状確認している。年に1回は苓北町虐待防止対策協議会があり参加している。		

グループホーム 菜の花苓北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い全職員の理解浸透の取り組みを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解して頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動のみならず非言語もキャッチしその人の思いを察するよう日々の申し送りノートに記入し共有できるようにしている。家族面会時意見など言いやすいよう心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1の職場会議などで意見を出し、職員全体で反映できるよう記録している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場会議や現場等で意見や悩みの把握、事業計画など報告し現状の理解に努めている。賞与査定行い支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合わせた、内部、外部研修を行い、法人として資格習得を促進し、優先しての勤務希望、休日の考慮などを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草グループホーム連絡協議会や町の研修会に参加し、他事業所との意見交換、研修等を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族及び居宅ケアマネからの情報提供に加え本人とも入居前面談、入居初期は関わりを深く持ち、本人の思いを知るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前見学や面談、入居時面談を含め、家族の思いを知るように努めている。面会時など気軽に話しやすい雰囲気づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況確認しサービス利用中の方は担当ケアマネと連携している。又サービス利用されていない方には申請の方法や地域包括支援センターに連絡対応を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗洗い・洗濯たたみ・掃除など本人の持っている力を引き出し職員と共に行えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や入居生活状況の報告をし在宅での暮らしぶりなどを知り、欲しい物やしたいこと、受診など協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医や理容室に通う方もおられ、四季折々の行事に地域に出向いていた。その方の地区の敬老会に参加していた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言動・表情・行動などを見極め、孤立化せぬよう声かけ、会話、時には冗談を言い、気の合う仲間と交流されたり、利用者の行動を見守ったり、会話されたりと支え合う場面がある。		

グループホーム 菜の花苅北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関入院された方にはお見舞いに出かけていた。ホーム生活での思い出など話したり、亡くなられた方にはお参りに行っている。施設入居された方には施設職員から現状を聞いたりしている。地域で家族からお話聞く場面もある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動、行動、表情から真意を推し量ったり、家族から聞くようにしている。家族の意向と本人の意向が食い違う場合はできるだけ本人本位されるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前担当ケアマネからの情報提供、本人との会話や家族、親戚、近隣の知人の方の面会時など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりや経過録、申し送り、個別カンファなどを含めて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向の確認や本人との毎日の関わりの中から言葉・表情・行動から察知したカンファや担当者の意見を反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各チェック表を利用、タブレット記入となり情報共有行い、個別カンファで職員全員で共有し、定期、変化時に見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ病院受診や外出支援など行っている。職員は業務優先とせず利用者優先を心がけている。		

グループホーム 菜の花菰北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人のなじみの地域や知人などと交流できる行事計画や参加、外出を行っていた。日常的に心身の力を維持改善できるような生活の中での支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を、本人、家族の意向のもと継続し、定期受診後、家族には面会時、また、変化時電話連絡や手紙で報告している。訪問診察を受けている方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を非常勤1にて配置、異常時等電話連絡にて対応している。必要時、かかりつけ医に連絡、受診介助している。受診結果は経過録にて職員全員把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時家族と共に主治医から治療方針、期間などを聞き、担当者に日頃の状況を口頭や書面で情報提供している。退院時カンファレンスの参加、入院中の経過、退院後の留意点など口頭や書面で情報提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時看取りまで行うことを説明している。重度化した場合、ホームでできる事を説明し、医療機関との連携を行い、本人、家族の意向を踏まえ、家族と共に尊厳ある終末期迎えられるようチーム全員で支援していく予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて緊急時対応や利用者の個々の対応など随時対応できるようにしている。急変時は管理者、看護師に連絡し、かかりつけ医受診等の対応を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の防災訓練や事業所での年2回の訓練を全職員で行っている。		

グループホーム 菜の花菘北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを保つよう心がけている。なじみの言葉かけや時には冗談で笑顔を引き出すようにしているが、危険行為や他の利用者の迷惑行為時などは注意する場面もあり、その後のフォローを行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動・表情・行動などを見極め、さりげなく声かけしたり、準備したり、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、入浴や役割など一人一人のペースに合わせ支援し、その日の気分を見極め、気分転換や個別に会話し思いの把握支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時衣服の選択など本人に行って頂いている。理美容は本人、家族意向のもと、行きつけや福祉美容室を利用。外出時は本人、家族の希望の衣服を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に旬の物や頂き物等みて行事食やメニューを相談、調理や後かたづけなど職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好、食事量、形態を把握、提供し摂取されている。水分の入らない方にはとろみを付けたりお好きな物を飲んでいただくよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導し一人一人の能力に応じて職員が見守ったり、介助、必要時は歯科受診している。就寝前はポリドントにて除菌。日中はコップ、歯ブラシの日光消毒や適宜ハイター消毒。		

グループホーム 菜の花菟北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個別支援している。日中はトイレ排泄を基本に、排泄前のサインをキャッチし誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳製品、繊維質の多い食品の調理や排便時間把握や排便前のサインをキャッチし運動、腹部マッサージ、腹圧などにて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日は設定しているが一人一人の体調や意志、汚染状況に応じ随時対応。入浴されない日は部分浴し清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中役割やレク活動を行い生活のリズムを支援しているが、昼夜逆転の方には本人のペースに合わせ、職員が寄り添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや服薬袋にて効能を把握できるようにしており、服薬チェックを行っている。薬剤管理指導にて薬剤師が来園されることも多く密に連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮できそうな事を準備支援している。行った後は必ず感謝の言葉を伝えている。行事、外出、レク活動など支援し気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居間もない方は落ち着かれず毎日自宅へ帰られていた。夜出かけておられたため遅く送り、朝から迎えに行っていた。法事の前日は買い物に行かれ、当日終わってから迎えに行っている。		

グループホーム 菜の花苓北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き好きな物を買っておられる。家族に買い物を頼まれたり、家族から預かり金を管理し出納帳を記録し家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人の要望時、子機にて話されるように支援している。携帯電話利用されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチン、高低差のある調理台・洗面台・天窓やサッシからの採光。トイレには見やすい表示などでわかりやすくしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室・ホール・ウッドデッキには椅子、ホーム内空間には置物やお花、季節に合った飾り物など居心地の良い空間作りに工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物を持ってきていただくようにしている。簡単な家具を備えているが、自宅より持参される方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい表示、居室個別のれん、手すり設置やトイレ手すり、玄関段差赤テープ目印、ホールは車いす移動、空間は机や椅子を設置し、安全に配慮している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

格 各 プ ホ ー ム 菜 の 花 苓 北

令和 6 年 3 月 22 日

### 【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	想定外の災害もあるため、停電や地震など様々な例を想定して災害対策をしていく必要がある。	様々な災害に対応できるように災害計画、対策を行う。	BCP策定を行い訓練や研修を定期的に行っていく。	12ヶ月
2	26	担当者会議の際家族の参加が少ない。	担当社会議に家族の参加を依頼し情報共有を行う。	担当者会議に家族の参加を依頼する。	12ヶ月
3	36	馴染みの関係になりすぎ、言葉かけや対応等誇りを損ねてしまうような対応になっているときが時々ある。	プライバシーや誇りの尊重を守っていくように心掛け、言葉かけ等一人一人の人生を考慮しながら対応を行っていく。	言葉遣いや対応に気をつけ、お互いに改善していきけるような環境作り。利用者のアセスメントの振り返り。定期的な研修会の実施や参加にて自己の振り返りを行う。	12ヶ月
4	38	業務優先になって、利用者の思いが伝わらなかったり、気づきにくくなっている時がある。	職員の役割を見直し、いつでも声かけやすく安心できる雰囲気作りをしていく。	ゆっくり利用者の思いを聞く時間を持ち、職員同士臨機応変に対応していく。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。